

## 2024年2月4日（日）第二礼拝 「神様の陣営」第一歴代誌12章22節

神様の陣営は慰める人と慰められる人の集まりで、神様の国を拡大するために働きます。

第一番目、慰める人たちが呼ばれます。ダビデは苦境に陥り、サウル王から逃れてペリシテ人の地に亡命しました。その時、サウルの同族にもかかわらずサウルの手からダビデを助ける人が現れました。また、ガド人から離れてダビデのもとに来た人々や、イッサカル族から、時を悟り、イスラエルが何をなすべきかを知っている人たちのかしら二百人もやって来ました。主が彼らを呼ばれたのです。つまり、神の陣営とは主が呼ばれた者の集まりなのです。「父がわたしにお与えになる者はみな、わたしのところに来ます。」(ヨハネ6:37)

イエス様が聖餐式の意味について語った時、群衆は離れていきました。しかし、イエス様の元に残った12弟子はイエス様の慰めとなりました。そんな彼らに、イエス様は「終わりの日にその人をよみがえらせます。(ヨハネ6:44)」と言われました。その約束通り、イエス様はよみがえられてから弟子たちに現れました。神様の約束に留まる人はこのように慰められます。

日系アメリカ人のHさんは、「この教会から祝福を受け、那珂川に行きなさい。」と主から語られ来日されました。那珂川は22年前まで洗礼を授けていた場所でした。当時、遊園地があったので人が多く集まっていたのですが、洗礼当日は大雨で誰もおらず、洗礼する時になると雨が止み、無事に洗礼を行うことができたのです。こんな奇跡が毎年起こりました。今回久しぶりに那珂川に行き、主がそのことを思い出させてくださりとても慰められました。そして失っていた夢がよみがえってきました。ヤコブが22年ぶりに死んだと思っていた息子ヨセフに再会し慰めを受けたように、主は慰める人を呼んでくださるお方です。

第二番目、慰められる人たちが呼ばれます。慰められる人とは、霊的に飢え渴く人、重荷を負っている人、恐れが強い人です。彼らは美味しい御言葉を食べるために主に呼ばれます。その美味しい料理はイエス様がなさいます。まさに、栄光のキッチン、栄光の食卓です。今、私たちは聖書を一年に一読するという挑戦をしていますが、この聖書の真理によって、私たちはこの世に打ち勝つことができます。この世は偽りの父サタンの支配下にあり、不法がはびこっています。しかし、このような社会にあっても、私たちは主の導きを受けることができ、絶望することなく、主の御言葉を確信して立つことができるのです。

第三番目、御霊の実です。今後この世は貧富の差がもっと拡大するでしょう。しかし、私たちが聖書朗読し、祈り、聖霊充滿になっていくことで、困難な状況にある人々を助け、解放することができます。「わたしの上に主の御霊がおられる。主が、貧しい人々に福音を伝えるようにと、わたしに油を注がれたのだから。捕われ人には赦免を、盲人には目の開かれることを告げるために。しいたげられている人々を自由にし、主の恵みの年を告げ知らせるために。」(ルカ4:18.19) また、主の与えるいのちの水が私たちのうちで泉となり、川となって、「すべてのものが生きる(エゼキエル47:9)」ようになると信じます。アーメン！